

編集後記

英米文学に片寄りがちな本論叢ではあるが、今回は新進気鋭の学究による英語音声学の論文を掲載できて幸いである。

スタイナー先生は、来日以来わずか2年間のあいだに、何度も学会発表をされたが、その中の一つを論文の形で載せることができた。残念ながら他大学に転任されることになったが、今後の御活躍を祈る。

日本ミルトン学の重鎮黒田健二郎先生の入学式記念講演は、先生の長年の研究が総括された大変に迫力のあるお話であったが、“お話”に終わるのは余りに勿体なく、ここに活字として再録願うことになった。大変有難いことである。

(上田記)